



祖母・傾・大崩 ユネスコエコパーク

Sobo, Katamuki and Okue
Biosphere Reserve



祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進協議会

ユネスコエコパークのしくみ

ユネスコエコパークとは

正式名称: Biosphere Reserves (生物圏保存地域)

ユネスコエコパークは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的として、1976年にユネスコが開始した事業です。

「世界遺産」が手つかずの自然を守ることを原則とする一方、ユネスコエコパークは自然と人間社会の共生が目的となっています。

登録総数は120カ国の669地域にわたります。(2017年6月現在)



国内登録地: 9ヶ所 (2017年6月現在)

白山(石川県、岐阜県、富山県、福井県)、大台ヶ原・大峯山・大杉谷(三重県、奈良県)、志賀高原(長野県、群馬県)、屋久島・口永良部島(鹿児島県)、綾(宮崎県)、南アルプス(山梨県、長野県、静岡県)、只見(福島県)、祖母・傾・大崩(大分県、宮崎県)、みなかみ(群馬県、新潟県)

3つの機能と地域

保存機能

(生物多様性の保全)

人間の干渉を含む生物地理学的区域を代表する生態系を含み、生物多様性の保全上重要な地域であること。

学術的 研究支援

持続可能な発展のための調査や研究、教育・研修の場を提供していること。

経済と 社会の発展

自然環境の保全と調和した持続可能な発展の国内外のモデルとなりうる取組が行われていること。

それぞれの機能は独立のものではなく、ユネスコエコパークを相互に強化する関係です。

この3つの機能を果たすために3つの地域を設定しています。

核心地域

自然環境を厳格に保護しなければならない地域

緩衝地域

核心地域と移行地域の間のクッションとして、人間活動から核心地域を保護するための地域

移行地域

人が暮らしを営み、環境に配慮した産業活動など持続可能な発展を目指す地域





そぼ かたむき おおくえ 祖母・傾・大崩

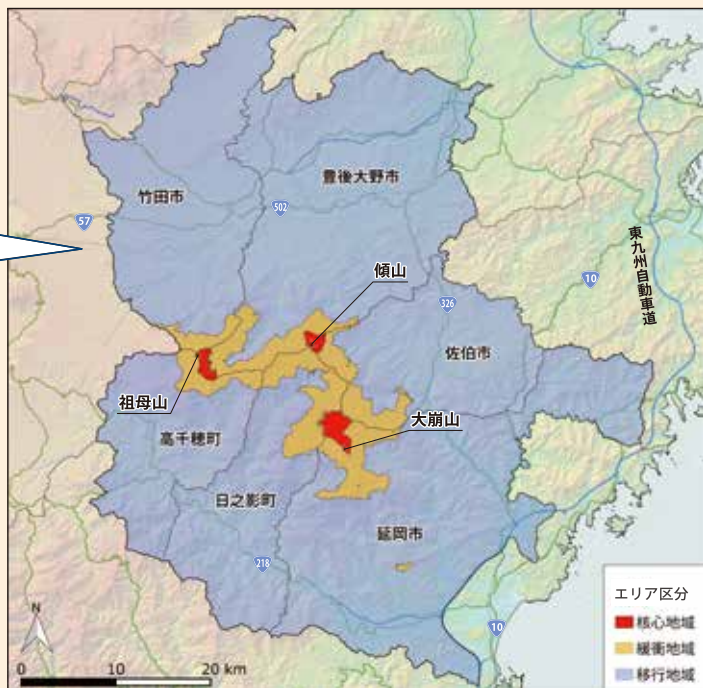
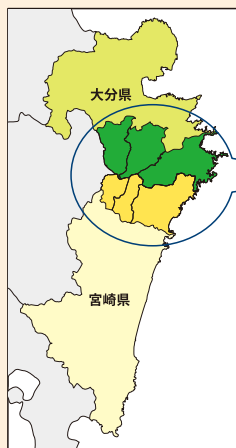
Sobo, Katamuki
and Okue
Biosphere Reserve

ユネスコエコパーク

大分県と宮崎県にまたがる祖母・傾・大崩山系とその周辺地域は、独特な景観美を有する特有の地形地質によって、多様かつ貴重な生態系が発達しています。

また、この豊かな自然を人々が敬い、守り、その恵みを上手に活用しながら暮らしてきた地域です。

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク
ゾーニング図▶



区分	面積 (ha)
核心地域	1,580
緩衝地域	17,748
移行地域	224,344
エコパーク全域	243,672

郡道府県・市町村地図は国土交通省「国土数値情報（行政区域データ）」（平成27年）をもとに、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク大分・宮崎推進協議会が加工した（<http://nhip.mlit.go.jp/ky/>）。
背景地図は国土情報 地形数値データ（色別標高図）を用いた（海抜部は海上保安庁海洋情報部の資料を使用して作成）（<http://www.gsi.go.jp/>）。

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの特徴

急峻な山岳地形と美しい渓谷

幅広い植生と希少性

豊かな自然の保全と活用



火山活動に伴う岩峰群が随所に見られ、人々を魅了する荘厳な断崖や低山部の美しい渓谷など、独特な景観美を有しています。



幅広い植生が見られるとともに、ニホンカモシカやソボサンショウウオなどの希少種が息する生物種の宝庫です。



自然への畏敬の念とともに、住民による自然保護活動や自然資源の持続的な活用（農業や観光業）が図られています。

祖母・傾・大崩山系の自然的特徴1

～急峻な山と深い渓谷～

急峻な山岳地形と雄大な稜線美で知られる祖母・傾・大崩山系は、起伏に富んだ岩峰群や切り立った崖、谷あいを守る幾筋もの渓谷など、複雑な地形地質をもち、四季折々で表情を変えるその独特な景観が、訪れる人々を魅了します。



天狗岩から見た祖母山
(竹田市、豊後大野市、高千穂町)

鋭く尖った稜線や岩壁など荒々しい姿を持つ祖母山は、地域の人々の畏敬の念も集めてきました。



川上渓谷
(豊後大野市)

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会提供

夏には深い緑に包まれる川上渓谷は、森林浴の森百選にも選ばれています。



傾山
(佐伯市、豊後大野市、日之影町)

撮影市/瀬 孝

祖母山へと傾いた形からその名がついた傾山は、雄大豪壮な岩峰が特徴です。



見立渓谷
(日之影町)

日之影町提供

奇岩と清流で知られる見立渓谷は、秋には紅葉で鮮やかに染まります。



大崩山(湧塚)
(延岡市)

延岡市提供

花崗岩の岩壁が圧巻の大崩山は、春にはアケボノツツジが彩りを添えます。



冠雪の傾山
(佐伯市、豊後大野市、日之影町)

冬、祖母・傾・大崩山系は、きらめく霧氷や雪に覆われ、静かな白銀の世界が広がります。

祖母・傾・大崩山系の自然的特徴 2

～幅広い植生と希少性～

標高が高く原生的な天然林が多く残された祖母・傾・大崩山系では、山の高さに応じ、暖温帯から冷温帯までの幅広い植生を見ることができます。

また、特別天然記念物のニホンカモシカや、日本列島の成り立ちを表すとされる「ソハヤキ要素」の植物など、限られた地域にしか生育・生息しない希少な動植物が数多く存在する貴重な地域です。これら希少な動植物は絶滅の危険性にさらされており、分布地域の環境を大切に守っていくことが必要です。

※ソハヤキ要素：日本列島のうち、古くから陸地であった紀伊、四国、九州の山地帯に共通して分布する日本固有種のこと。

ミホシカモシカ



国指定特別天然記念物。日本固有種で九州地域では絶滅が危惧されています。

キレンゲシヨウマ



撮影：平野修生

黄色いラッパ状の花が特徴のソハヤキ要素の植物です。絶滅が危惧されています。

ソボサンシヨウウオ



宮後大野市自然史友の会提供

祖母・傾・大崩山系の溪流にのみ生息する固有種で、2014年に新種として記載されました。

ブナの巨木



撮影：小田 毅

様々な植生の垂直分布が見られる祖母・傾・大崩山系の奥山では、このようなブナの巨木も見られます。

オオムラサキ



絶滅が危惧されているオオムラサキは、鮮やかな色合いが特徴で日本の国蝶にもなっています。

ツクシアケボノツツジ



標高1,000m以上の高山で見られる九州特産種で、春には多くの登山者を魅了します。

祖母・傾・大崩山系にみる自然と人の共生1

～貴重な自然を守り、はぐくみ、次世代へ～

祖母・傾・大崩山系の豊かな自然を守り、その姿を次世代に残していくため、貴重な原生林の保護を図るとともに、植樹や適切な森林の多機能化を図る取組、生態系等に関する調査、鳥獣被害対策や河川環境改善の取組などが行われています。

奥山地域における
植生等の調査



豊後大野市提供

再生した
白山川の
ゲンジボタル

森林の機能を
維持するための
間伐



延岡市提供

～自然を感じ、まなび、その大切さを次世代へ～

祖母・傾・大崩山系の自然の豊かさ、保全の重要性を次世代へ伝えていくため、共生に関する教育や研修が行われています。また名だたる登山スポットでもある祖母・傾・大崩地域では、地域外へその魅力を発信するため、自然環境を活かしたエコツアーリズムや、キャニオニング、ボルダリングといった自然体験も盛んに行われています。

祖母山の山開き
(山頂祭)



高千穂町提供



豊後大野市提供

子ども達との
環境教育・
自然観察会

藤河内溪谷での
キャニオニング



佐伯市提供

祖母・傾・大崩山系にみる自然と人の共生2

～自然を敬い、受け継がれてきた伝統を次世代へ～

古くからこの地域では、日々の営みに密接に関わっている祖母・傾・大崩山系の恵みに感謝し、豊作や安全を祈願する祭礼が行われ、神楽や獅子舞が奉納されてきました。自然を敬う気持ちを今でも忘れずに、その伝統を次世代へ受け継ぐ取組が行われています。



子どもたちへの
民俗芸能の伝承

九州唯一の
農村歌舞伎である
大人歌舞伎



～自然の恵みを活かし、紡いできた暮らしを次世代へ～

急峻な地形という厳しい自然環境の中でその恵みを最大限活かそうと、人々は古くから知恵と工夫を重ねてきました。かつては日本屈指の鉱山として賑わいをみせた一方、農業、林業、竹細工など様々な産業が脈々と受け継がれ、現在では全国有数の木材、しいたけ、仏事に用いられるシキミなどの産地となっています。



祖母・傾・大崩
山系の恵み



国内随一の品質を
誇るシキミ



主要な産業のひとつ
竹細工



貴重な水を
均等に分けるために
築かれた円形分水



祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの取組

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの活動理念

尖峰と溪谷が育む森と水、いのちの営みを次世代へ
～自然への畏敬をこめて～

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークでは、登録を契機として、この地域の豊かな自然環境のほか、自然への畏敬の念とともに発展を遂げてきた人々の営みを、しっかりと次世代へ継承していくことを目指します。

取組の基本方針

基本方針 1

貴重な生態系の持続的な保全

- ①調査研究の推進による保全機能の充実
- ②地域住民主体の保全活動の推進

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク

基本方針 2

学術的研究や調査・研修への支援

- ①学術研究体制の構築による調査研究の推進
- ②地域との連携によるESDの推進
- ③国内外の課題解決のモデルとしての貢献

基本方針 3

自然と共生した持続可能な発展

- ①時代に即した持続的利活用による地域の発展
- ②次世代の担い手の確保、育成

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークでは、3つの機能を十分に発揮するため、上記の基本方針に沿った取組を、関係機関が一体となって進めています。

推進協議会のあゆみ

2015年2月
祖母傾ユネスコエコパーク
大分・宮崎推進協議会設立

2016年8月
国内推薦の決定
(日本ユネスコ国内委員会
MAB計画分科会)

2017年6月
登録決定
(ユネスコMAB計画
国際調整理事会)

2017年9月
祖母・傾・大崩ユネスコ
エコパーク推進協議会
設立

問合せ先 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進協議会

大分県事務局／大分県生活環境部自然保護推進室 TEL 097-536-1111 (県庁代表)
宮崎県事務局／宮崎県総合政策部中山間・地域政策課 TEL 0985-26-7035 (直通)

大分県佐伯市地域振興課 TEL 0972-22-3486 (直通)

宮崎県延岡市経営政策課 TEL 0982-22-7074 (直通)

大分県竹田市商工観光課 TEL 0974-63-4807 (直通)

宮崎県高千穂町財政課総合政策室 TEL 0982-73-1260 (直通)

大分県豊後大野市商工観光課 TEL 0974-22-1001 (代表)

宮崎県日之影町地域振興課 TEL 0982-87-3910 (直通)

詳しい情報は公式ホームページでお知らせしています！

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進協議会公式ホームページ

<http://sobokatamuki-br-council.org/>

